2023年度ジェンダー・セクシュアリティ研究レインボー賞受賞論文について

オリビエ・アムール＝マヤール
（2023年度選考委員長）
クリストファー・ボンディ
（推薦コメント）
生駒夏美
（推薦コメント）

「ジェンダー・セクシュアリティ研究レインボー賞」は、ジェンダー研究センターの設立に尽力され、2014年にご退官された田中かず子教授により創設されました。賞の目的は、本学に提出された学士・修士または博士学位論文の中で、優れたジェンダー・セクシュアリティ関連研究を表彰し、そしてジェンダー・セクシュアリティ研究の一層の発展を期待するものです。2023年度は、優秀な論文が複数推薦され、ズャーリッチまりやさんの学士論文「同性間パートナーシップにおいて生じる課題感及びそれらを解決しうる制度の検討 日本国内のパートナーシップ宣誓制度に関する質的調査研究を通して」と、中村桃子さんの学士論文「『ポリアモリー』概念における人種主義と植民地主義――モノガミー制度上でのポリガミーの排除に着目して」とに決定しました。

ズャーリッチさんの論文は、日本全国にわたる調査を基に、いわゆる「パートナーシップ制度」における同性カップルの経験と見解に主に焦点を当てています。この論文は、多様な地域を対象とした綿密な調査研究であり、異性愛規範が結婚に対する理解や受容に及ぼす影響を浮き彫りにしています。日本全国の同性カップル40組以上へのインタビューをまとめたこの論文では、回答者の声が紹介されています。回答者の中には、国家による結婚の承認を求めている人もいれば、現代社会における結婚制度自体に問題があると考えている人もいます。パートナーシップ制度の承認に直接影響を受ける人々、結婚の平等を求める人々、制度全体を拒絶する人々の声が、共感を持って紹介されており、2023年のレイン

ボー賞にふさわしい一冊です。

中村さんの受賞論文は、米国社会で、近接した概念にもかかわらず、ポリアモリーが称揚される一方でポリガミーが批判される現状を丁寧に分析し、米国社会のポリアモリー概念が植民地主義や人種差別の歴史を考慮していない点を批判的かつ独創的に考察している点が評価されました。著者は米国のポリアモリーの分析にあたって、洗練されたフェミニスト理論やクィア理論を用い、性の政治について考察を加えており、2023年度のレインボー賞授賞に相応しいと判断されました。